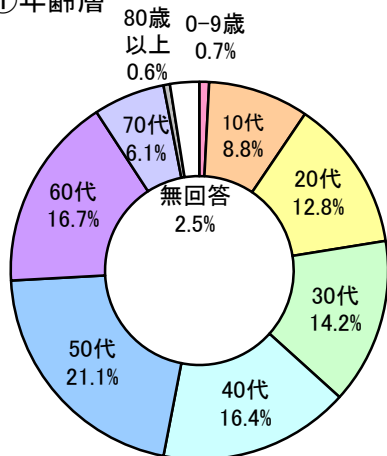


特別展「フランスが夢見た日本 —陶器に写した北斎、広重」 アンケート集計結果

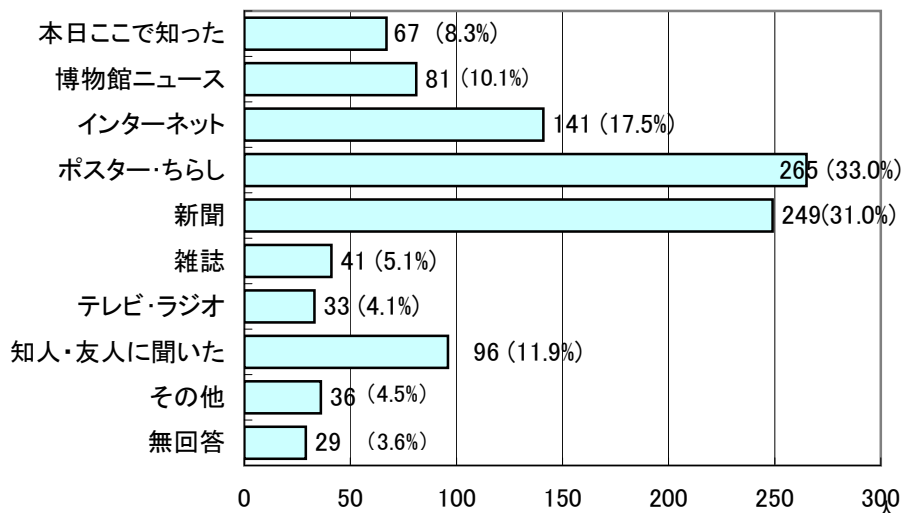
開催期間：平成20年7月1日（火）～8月3日（日）

回答者数：804人（総入館者数：58,342人 アンケート回収率：1.40%）

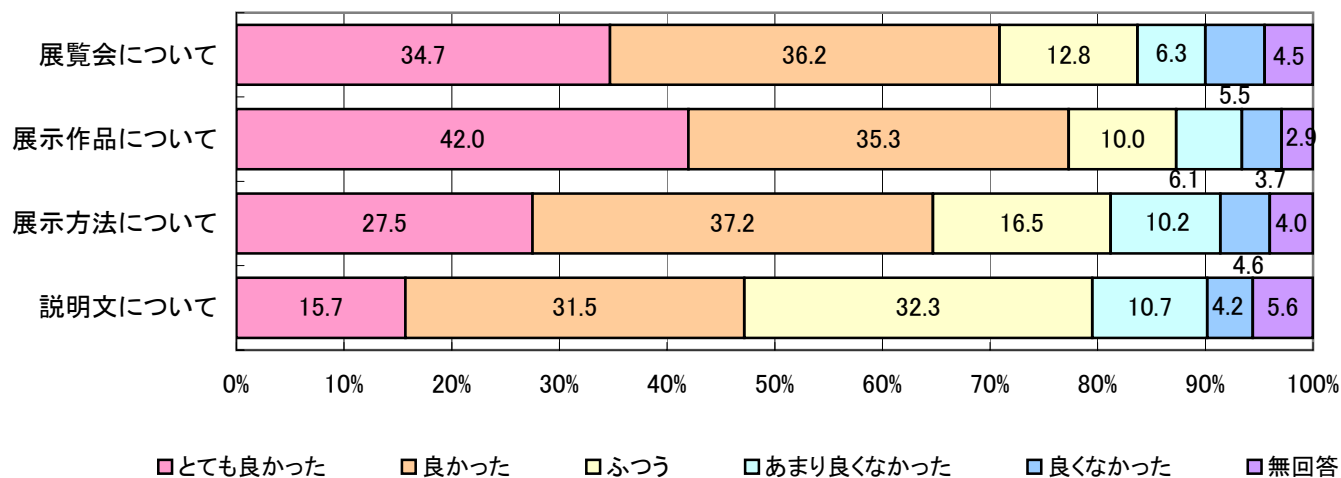
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・テーブルセッティングの再現がとてもよかった。
- ・原画と陶器を比較して、違いを比べることができ興味深かった。
- ・とても美しい陶器を見ることができ、また海外に負けない日本美術の良さを発見できた。
- ・オルセー美術館に日本の美術を参考にしたものがたくさん保存してあることに驚き、うれしかった。
- ・展示の内容や規模と建物とが調和した、良い展示だった。
- ・全体、および個々の作品に説明が少なかった。
- ・原画と陶器が離れて展示されていて比較しにくい箇所があった。
- ・順路がわかりづらい。順路表示に数字を入れるか、見取り図を掲示するなど、工夫してほしい。

本展覧会は、日仏交流150周年を記念したパリ・オルセー美術館と東京国立博物館の共同企画で、フランス美術における日本美術の影響をテーブルウェアに焦点をあてて紹介したものです。日本版画の題材に着想を得て作られ、1866年から1930年代まで人気を博したテーブルウェアと、そのモチーフの元になった北斎や広重などの作品を対比して展示し、約6万人のお客様にご来場いただきました。展覧会については約71%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいたほか、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で、「タイトルの割に小規模だった。」などの意見もいただきました。今後も、お寄せいただいたご意見・ご感想を参考に観覧環境の改善に努めてまいります。たくさんのご意見・ご感想をいただき、誠にありがとうございました。